那智勝浦町を復興支援

紀の川市の粉河RC　義援金も贈呈

寺本町長に義援金を手渡す平井会長

一昨年の台風12号水害からの復興支援を関西圏ロータリークラブ（RC）に呼び掛けた那智勝浦RC（庵野了嗣会長）の要請に応え、紀の川市の粉河RC（平井貴会長）が26日、那智勝浦町で例会および被災地視察研修を行った。例会の席上、平井会長から寺本眞一町長に義援金10万円が贈呈された。

粉河RCは通常なら地元で開催する例会を那智勝浦町に移して開き、家族含め15人が来町。例会は町内のホテルなぎさやで行われ、那智勝浦RCから庵野会長ら7人が出席した。

水害後に那智勝浦町や新宮市に入ってボランティア活動をした粉河RCの平井会長は「家族を失った心痛に言葉が出ません」と涙ぐみ、「この研修は想像を絶する被災の現実を認識し、自分の身は自分で守ることを次の世代にどのように伝えていくか考える機会でもある。対岸の火事でなく、自らの問題と捉えいろんなネットワークを通じより広くより深く、また絆を深めながら行動を起こさなければならないと思っている」と話した。

義援金を受け取った寺本町長はお礼の言葉を述べ、「皆さんの勇気づけでようやく落ち着きを取り戻してきたが、風評被害による観光、水道などインフラの復旧復興は道半ば。国、県関係の復旧工事は4年くらいかかる。われわれの町は南海トラフの巨大地震・津波被害が予測されている。今後とも出会いを大切にしていきたい」と述べた。

那智谷大水害遺族会会長の岩渕三千生さんが当時の状況を報告。「ごみ処理をはじめいろんな問題が発生し町に要望したが町長まで届かなかった。遺族会を結成してからは直接、町長はじめ県や国の担当者と話ができた。個々では難しいので粉河RCが中心になって関係機関とコンタクトがとれる態勢づくりを考えてほしい」と経験から感じたことを語り、「防災は自分の身は自分で守るのが鉄則。遺族会で作製した写真集を通じ防災意識を高めることができたらうれしい」と写真集を配った。

岩渕さんから当時の状況を聞く粉河RCら

2013.1.29